

滝議第1418005号

令和3年2月18日

滝沢市議会議長 日向 清一 様

総務教育常任委員会

委員長 相原 孝彦

総務教育常任委員会所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務の調査を次のとおり終了したので会議規則第77条に基づき報告
します。

記

1 調査事件

若者による課題掘り起こし及び魅力発見の取組について

2 調査結果

別紙のとおり

別紙

1 調査事項

若者による課題掘り起こし及び魅力発見の取組について

2 調査理由及びその目的

「たきざわ幸福実感アンケート報告書（R1年度）」によると、多くのふれあいの機会があり、人間関係が良好であると感じている人の割合は経年比較では再度上昇傾向にあるものの、そう感じていない人の割合を常に下回っている状況である。また、本市に愛着がある人の割合は、ゆるやかな減少傾向にある。

滝沢市総合計画後期基本計画の展開戦略の1つに掲げている「若者定住」を促進するためにも、地域・人とのつながりを魅力とした取組（若者による課題掘り起こし）及び滝沢市に愛着を持てるような取組（魅力発見）は一層強化する必要があるため、調査研究を行うものである。

3 総務教育常任委員会委員

委員長 相原孝彦

副委員長 柳橋好子

委員 角掛邦彦、仲田孝行、松村一、菅野福雄

4 調査内容

(1) 調査経過（関連資料は別添）

開催日	内容
令和2年7月30日（木）	【委員会内協議】 所管事務調査項目を「若者による課題掘り起こし及び魅力発見の取組について」と決定し、調査の目的等を共有した。
令和2年8月4日（火）	【委員会内協議】 事業内容を確認し、当局への質問事項について協議した。
令和2年8月19日（水）	【企画政策課への事務調査『資料1』】 <内容> ・タキザワコレカラカイギ、学連携等の取組 ・職員自体の地域愛着形成の取組 【地域づくり推進課への事務調査『資料2』】 <内容> ・若者と地域のつながりづくり ・職員自体の地域愛着形成の取組
令和2年9月4日（金）	【委員会内協議】 滝沢市PTA連絡協議会へアンケートを実施することとし、アンケート内容を協議した。

令和2年10月20日(火)	【委員会内協議】 アンケート集計結果について共有した。
令和2年10月23日(金)	【委員会内協議】 当局への質問事項について協議した。
令和2年11月6日(金)	【生涯学習スポーツ課への事務調査『資料3』】 <内容> ・学びプランの進捗 ・基本施策2・1 社会教育を基盤とした「人・つながり ・地域づくり」の今後の展開 【文化振興課への事務調査『資料4』】 <内容> ・伝統文化の継承状況 ・伝統文化の発表の機会 ・親子が参加できる魅力発見ツアー ・昔の農機具紹介
令和2年11月12日(木)	【委員会内協議】 捉えた課題、解決策等について協議を行った。
令和2年11月20日(金)	【委員会内協議】 捉えた課題、解決策等について協議を行った。
令和2年12月4日(金)	【現地調査】 民具保管庫、埋蔵文化財センターを調査した。
令和2年12月11日(金)	【委員会内協議】 捉えた課題、解決策等について協議を行った。
令和2年12月25日(金)	【委員会内協議】 報告書の内容に係る協議を行った。
令和3年1月18日(月)	【委員会内協議】 報告書の内容に係る協議を行った。
令和3年1月29日(金)	【委員会内協議】 報告書の内容に係る協議を行った。
令和3年2月10日(水)	【委員会内協議】 報告書の内容に係る協議を行った。

(2) 特記事項

ア アンケート調査

〔実施目的〕

滝沢の課題や魅力について考える機会が持てているのか等の調査のため

〔実施期間〕

令和2年9月10日～10月16日

〔調査方法〕

質問紙法

〔対象〕

市PTA連絡協議会（役員、各学校5名程度）

〔回答数〕

回答学校数 13（市内全小中学校）

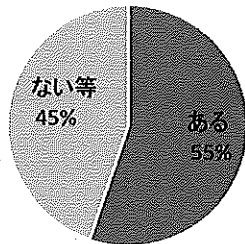
回答者数 58（男19、女39）

〔調査項目〕

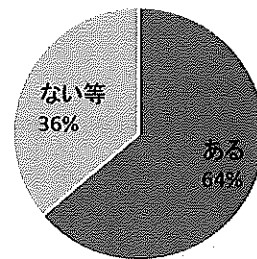
- 1 あなたが考える滝沢の課題（教育分野）や魅力は何ですか。
ある方は、その内容をお知らせください。
- 2 滝沢のさまざまな課題や魅力について考える機会がありますか。ある方は、どのような機会かお知らせください。
- 3 その他、滝沢のさまざまな課題や魅力について考える機会として、あったらいいなという取組があれば、お知らせください。
- 4 あなたは、地域（自治会等）とつながっていると思いますか。思っている方は、どのようにつながっていると感じているのか、お知らせください。
- 5 その他、ご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

〔集計結果〕 ※個別具体的な内容は略しています。

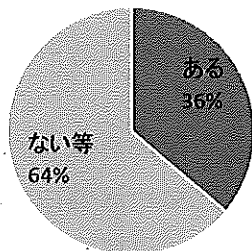
1-1 あなたが考える滝沢の課題(教育分野)は何ですか。
ある方は、その内容をお知らせください。



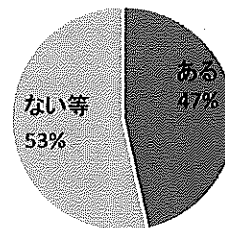
1-2 あなたが考える滝沢の魅力は何ですか。
ある方は、その内容をお知らせください。



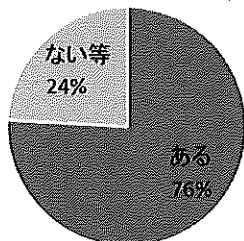
2 滝沢のさまざまな課題や魅力について考える機会がありますか。ある方は、どのような機会かお知らせください。



3 その他、滝沢のさまざまな課題や魅力について考える機会として、あったらいいなという取組があれば、お知らせください。



4 あなたは、地域(自治会等)とつながっていると思いますか。思っている方は、どのようにつながっていると感じているのか、お知らせください。



本委員会で実施したアンケート結果によると、滝沢のさまざまな課題や魅力について「考える機会がある」と回答があったのは約36%であり、「無記入、特になし、考えたことがない」等であったのは約64%であった。このことから、市民一人ひとりが滝沢のさまざまな課題や魅力について考える機会を持てるような取組が必要である。

「地域（自治会等）とつながっていると思う」と回答したのは、約76%であり、「無記入、特になし」等であったのは約24%であった。このことから、市PTA連絡協議会の役員等、役割を担うことによって地域とつながっていると感じるのかもしれない。

イ 現地調査【令和2年12月4日（木）】

民具保管庫、埋蔵文化財センターを調査した。

（ア）民具保管庫

（イ）埋蔵文化財センター

5 考察

本市の総合計画後期基本計画の展開戦略である「若者定住」促進のためには市の課題の掘り起こし及び市の魅力を発見して周知することが必要である。

特にも若者自身が課題を掘り起こし、魅力を発見することで、人とのつながりを構築し、滝沢に愛着を持ち、滝沢に住みたい、戻って暮らしたいという気持ちにつながっていくものとする。

以下、アンケート調査結果も踏まえて若者による課題掘り起こしの取組と若者による魅力発見の取組に分けて考察していく。

（1）若者による課題掘り起こしの取組

若者が地域の課題を捉え、その解決策について考える機会として、地域人材育成・交流事業や学連携事業等がある。

しかし、若い社会人は仕事や子育てで多忙であり、地域づくりに参画する余裕がないためか、地域づくりに消極的な考え方もあることがうかがえる。多忙な若者が地域づくり活動に参加しやすい取組が必要である。

地域づくり活動に携わっている団体等は様々あるが、自治会連合会や市内小中学校全12実践区、地域づくり懇談会等の活動メンバーの重複や活動内容に類似性がみられる。このことから、負担軽減を検討し、教育振興運動と地域づくり活動の連動性を持ちながら、学校・PTA・自治会・事業所・団体等が相互に連携し、対話による課題の掘り起こし、共有、解決策まで見出すことが今後求められる。そのためには、庁内の連動と連携が必要である。

また、タキザワコレカラカイギの参加者やインターシップ等の学生に、定住につながる意見を求めていくことも重要と考える。

（2）若者による魅力発見の取組

本市を知る機会が不十分であることにより、地域人材育成・交流事業において企画されたツアーの継続や、新たな滝沢の魅力発見親子ツアーの企画、滝沢にしかない伝

統文化を観る機会や参加する機会を増やすことが必要である。また、市内の遺跡や地域の由来を知ってもらうことなども新たな魅力発見につながると考える。

さらに、伝統文化の伝承と保存も重要である。発表の場を増やし、財政支援等を行うことにより、今後の活動がさらに活発になり、子どもたち、若者世代へ意欲的に伝承されると思われる。CD、DVDなどのデジタル媒体を用いることにより、確かな伝承が期待され、着実な保存が可能であり、PR活動にも活かすことができる。

滝沢市埋蔵文化財センターについて、体験コーナーの充実、埋蔵文化財をビッグルーム滝沢に展示するなど、多くの市民に知ってもらう工夫が求められる。古代の滝沢での生活ぶりを理解することで歴史の面白さや素晴らしさを感じてもらい、魅力発見につなげ、観光と両輪で進めることも大事であるとする。

旧公民館ホールを活用した民具保管庫は、江戸時代から昭和40年代に使用されてきた農具や生活用具を中心に展示され「小中学生の学びの場」として活用されているが、展示の工夫や民具の劣化防止をする必要がある。

本市にはあまり住民に知られていない「カワシンジュガイ」の生息地や各地域から見える岩手山麓の風景など沢山の自然の魅力があるため、魅力の発見に止まらず、発信も重要である。滝沢市に愛着を持ってもらうために、各自治会から地域の魅力を発信してもらうことや、若者による魅力発見の写真展や動画コンテストの開催など、積極的な取組が必要である。

また、他県の若者に対し、滝沢の情報や自然の豊かさをSNS等で発信することにより、UターンやIターンにもつながると考える。

「滝沢ふるさと会」は本市の発展に寄与することを目的として平成21年度に設立され、140名ほどの会員数である。近年、会員の高齢化と若者世代が少ないことが課題となっている。若い人にも参加してもらうための工夫（ツアー企画の拡大等）、会員による本市の魅力の発信、企画へ参画してもらう機会づくりが必要である。

最後に、何より、市職員が本市を十分に知っているか、愛着を持っているか、愛を持って住民に接しているかが問われる。

若者定住に関する取組は、庁内での連携を密にしながら横断的な政策・施策を講じなければならないため、横断的な部署「若者定住課（仮称）」を新たに設置し、若者定住に向け総合的な計画策定を早急に進めるべきと考える。

総務教育常任委員会 所管事務調査資料

若者による課題掘り起こし及び魅力発見の
取組について

令和 2年 8月19日
企画総務部企画政策課

R2. 8. 19 総務教育常任委員会資料

「若者による課題掘り起し及び魅力発見の取組について」

1 第1次滝沢市総合計画後期基本計画での「若者定住」の位置づけ

展開戦略②

経済情勢の変化 × 就労の場が少ない × 働き方に関するニーズ

若者が定住できる受け皿を確保します

高齢化率の上昇や少子化に対応するためには、滝沢市に若者が定住し、市内もしくは周辺で働き口を持てるということが重要です。全国的に、地元での就職意向を持つ学生が多く（図4）、滝沢市内の大学で学んだ学生の中でも、「（滝沢市を含む）県内で就職したい」という若者も一定数います（図5）。しかしながら、県内全般ではこういった方々の受け皿は十分とは言えず、県内就職を望みながらも仕方なく県外へ出ていく若者もいることが想定されます。これに対し、まず滝沢市としては、企業集積や起業支援、異業種連携等により、受け皿自体の拡大に向けた独自の取り組みを進めていきます。

ただしこの課題は、職種や、子育てと仕事の両立等の「働き方」、さらには暮らしなど、多くの選択肢が必要なことから、より広範な職種の確保や職住の分担等について、商業や観光・農業等を含め、広域での連携も図りながら対応していきます。

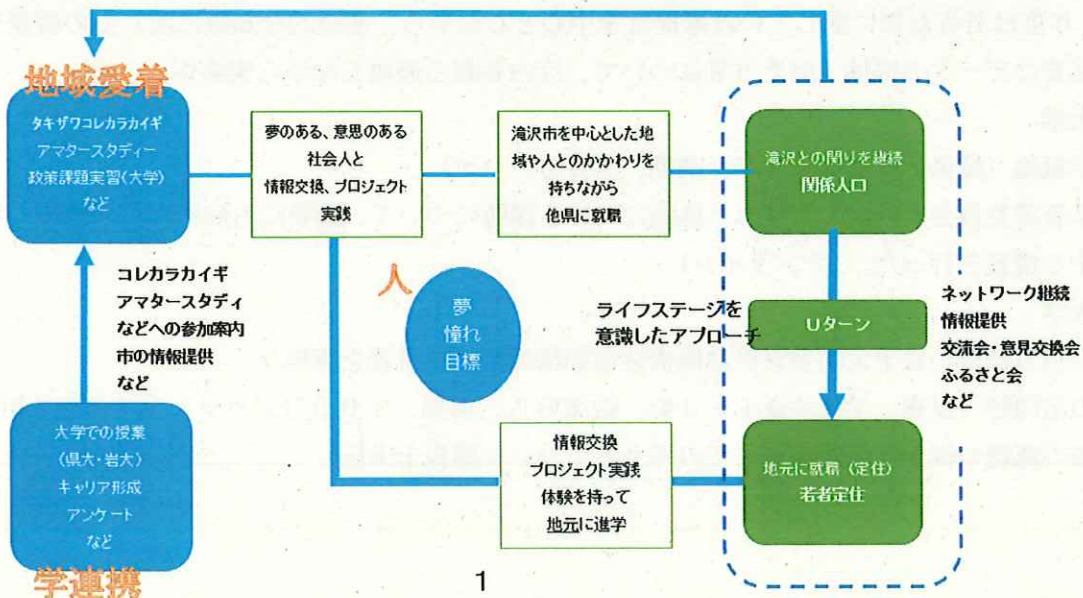
更に、広く小中高生から大学生までをターゲットとして、滝沢を知り「愛着」を持てるような機会をつくることで、若い世代が中心となってまちに誇りや愛着を持ち、働き方を含めた多様なライフスタイルが実現可能であることを伝え、UIJ ターンによる人口還流を生み出し、就労・定住へとつながる事業展開を行います。

2 「若者定住」のキーワード

若者定住策を検討する場合のキーワード（要素）

- 1) 仕事 市内もしくは周辺地域に働く場所（働きたい、夢をかなえる）はあるか
→市内産業（農業、商業、工業ほか）企業、企業誘致、人材育成ほか 経済産業部ほか
- 2) 暮らし 暮らしやすい環境が整っているか
→住宅、子育て、交通（公共交通）など利便性があるか 都市整備部、健康福祉部ほか
- 3) 愛着 人や地域などへの愛着があるか
→人（家族、友達、地域、大人）、風土、文化、自然 教育委員会、企画総務部ほか

3 愛着から「若者定住」へのアプローチ（別添資料参照）



4 地域愛着関連の事業等の実施実績

(1) タキザワコレカラカイギ

様々な話を聞き、オープンに情報交換、意見交換を行う場として今まで10回のタキザワコレカラカイギを実施しています。

平成30年度

- #1 テーマ「はじめる」(10月実施) 参加者23人
- #2 テーマ「よそを知る」(11月実施) 参加者30人(塩尻市 山田崇係長 講師)
- #3 テーマ「くらべる」(11月実施) 参加者17人
- #4 テーマ「くらべる」(12月実施) 参加者16人
- #5 テーマ「たずねる」(1月実施) 参加者9人
- #6 テーマ「まとめる」(2月実施) 参加者9人
- #7 「1分間で話せ!“Taik Your Will” in 岩手県滝沢市」(3月実施) 参加者73人
プレゼンター16人

令和元年度

- #8 テーマ「コレカラの公園の使い方」 参加者32人(滝沢市 浦島主査 プレゼンター)
- #9 テーマ「コレカラの地域課題をHackする」 参加者24人
(滝沢市 佐藤地域おこし協力隊 プレゼンター)
- #10 テーマ「非線形にたのしむ、ゆるくて創造的なコレカラ」参加者45人
(慶應義塾大学 若新特任准教授 講師)

(2) 首都圏に就職した岩手県立大学卒業生との交流会

首都圏に就職した岩手県立大学卒業生との交流会を開催し、滝沢市の情報提供、ふるさと会への勧誘、Uターンに対する情報交換を実施した。(約20名の岩手県立大学卒業生が出席)

今後は、他大学出身者など滝沢市出身の若者との交流会へと拡大していきたい。

5 学連携関連の事業等の実施実績

(1) 大学との連携等事業

<令和2年度>

①岩手県立大学

政策課題実習(授業、総合政策学部3年、前期、180分/コマ、10回参加)

→滝沢市をフィールドにした地域の課題を捉え、その解決に向けた政策提言を行う授業。

R1年度は若者政策に関する政策提言を中心としながら、基礎的な知識に関する講義や検討に必要なデータの提供・捉え方等について、庁内各課と連携しながら実施中。

②盛岡大学

社会学概論(授業、学部共通1年、前期、90分/コマ)

→選挙管理委員会と合同で実施し、地域における課題について、選挙にも触れながら地域の実情に関する講義を行った。(オンライン)

③岩手大学

学連携担当職員が岩手大学教育推進機構非常勤講師として講義を実施。

・現代の諸問題(授業、学部共通1~3年、約200人、前期、100分/コマ、全ての回を担当)

→地域の課題の例から問題解決までの考え方について講義を実施。

・地域課題演習 A (夏季集中講義、9月実施予定)

→滝沢市をフィールドに、立地している企業をバスで回りながらヒアリングを行い、滝沢市における課題とその解決策を通じた地域の在り方について考える。

・キャリアを考える

→滝沢市で働く人々やつながりのある近郊の方々をゲスト講師としてお呼びし、経験等を話していただき、学生のキャリア形成について講義を行う。

<※令和元年度>

①岩手県立大学【アンケート実施】

・政策課題実習 (授業、総合政策学部3年、前期、180分/コマ、10回参加)

→滝沢市をフィールドにした地域の課題を捉え、その解決に向けた政策提言を行う授業。

R1年度は健康づくり政策に関する政策提言を中心としながら、基礎的な知識に関する講義や検討に必要なデータの提供・捉え方等について、庁内各課と連携しながら実施した。

・期日前投票所の学内設置

→選挙管理委員会と合同で実施。希望する学生を投票所設置運営メンバーとして、学内に期日前投票所を設置、選挙啓発と選挙に関する業務体験を行った。

②盛岡大学【アンケート実施】

・入学時オリエンテーションへの参加

→オリエンテーションの際に、大学の立地する自治体を知るということで滝沢市に関する説明の時間をいただき、人口や自然等の滝沢市の基礎知識に加え、総合計画等考え方について説明。

・社会学概論 (授業、学部共通1年、前期、90分/コマ)

→選挙管理委員会と合同で実施し、地域における課題について、選挙にも触れながら地域の実情に関する講義を行った。

・期日前投票所の学内設置

→選挙管理委員会と合同で実施。希望する学生を投票所設置運営メンバーとして、学内に期日前投票所を設置、選挙啓発と選挙に関する業務体験を行った。

③岩手大学【アンケート実施】

・地域課題演習 A (夏季特別授業、学部共通2・3年生、90分/コマ、14回参加)

→地域の課題、特に経済面や就職面等に関して、滝沢市を実例に挙げながら、公務員として地域とどう関わっていくべきか、また働き方等についての講義及びグループワーク等を実施。実施に際しては、庁内の他課職員や市内企業の社員等も一緒に入りながら、実際に地域で働くこと等についての対話の機会を創出した。

・地域課題演習 H (後期、学部共通2・3年生、90分/コマ、2回参加)

→県内の各企業・自治体へインターンシップとして参加をしてきた学生が集まり、学んだことや今後どう生かしていくか等についてのワークショップを行う際、ファシリテーターとして参加した。また、公務員として地域とどう関わっていくべきか、また働き方等についての講義も実施。

☆岩手大学については、R1年度から本格的に連携をスタートさせたもの。

R2年度には、職員が講師となり、地域課題の捉え方やその解決方法の検討等に関して教養科目を1つ担当する。

(2) その他学校との連携事業等

○専門学校【アンケート実施】

・盛岡公務員法律専門学校

→アンケート調査を実施。また、タキザワコレカラカイギ等の若者定住に関連した市の取り組みを紹介し、実際に参加をいただいている。講義については実施してほしい旨の話があり、現在調整中。

・上野法律ビジネス専門学校

→アンケート調査を実施。また、タキザワコレカラカイギ等の若者定住に関連した市の取り組みを紹介している。

○高等学校

・盛岡北高等学校

→社会科の授業において、選挙管理委員会と連携しながら総合計画の説明及び選挙制度に関する授業を行った。その際、アンケート調査も実施。

○小中学校

・小中学校共通

→アウトオブキッザニア in 滝沢において、市役所の部長の仕事を体験できるブースを出展、そのブースにおいては市内外の中学生（小学生も）が参加し、市役所の仕事のあまり見えない部分を知る機会を設けた。

(3) その他

インターンシップ

→総務課と連携しながら、これまでのインターンシップのやり方を見直し、参加者同士や職員との対話を重視した形とした。県立大・盛大・岩大のほか、都留文科大学・茨城大学・東京女子大学などの県外大学や、県内の専門学校・高校から28名が参加。(H30は10名)

愛着から「若者定住」へのアプローチ

地域愛着

タキザワコレカラカイギ
アマタースタディー
政策課題実習(大学)
など

夢のある、意思のある
社会人と
情報交換、プロジェクト
実践

滝沢市を中心とした地
域や人とのかかわりを
持ちながら
他県に就職

滝沢との関りを継続
関係人口

コレカラカイギ
アマタースタディー
などへの参加案内
市の情報提供
など

人
夢
憧れ
目標

ライフステージを
意識したアプローチ

Uターン

ネットワーク継続
情報提供
交流会・意見交換会
ふるさと会
など

大学での授業
(県大・岩大)
キャリア形成
アンケート
など

情報交換
プロジェクト実践
体験を持って
地元に進学

地元(に)就職(定住)
若者定住

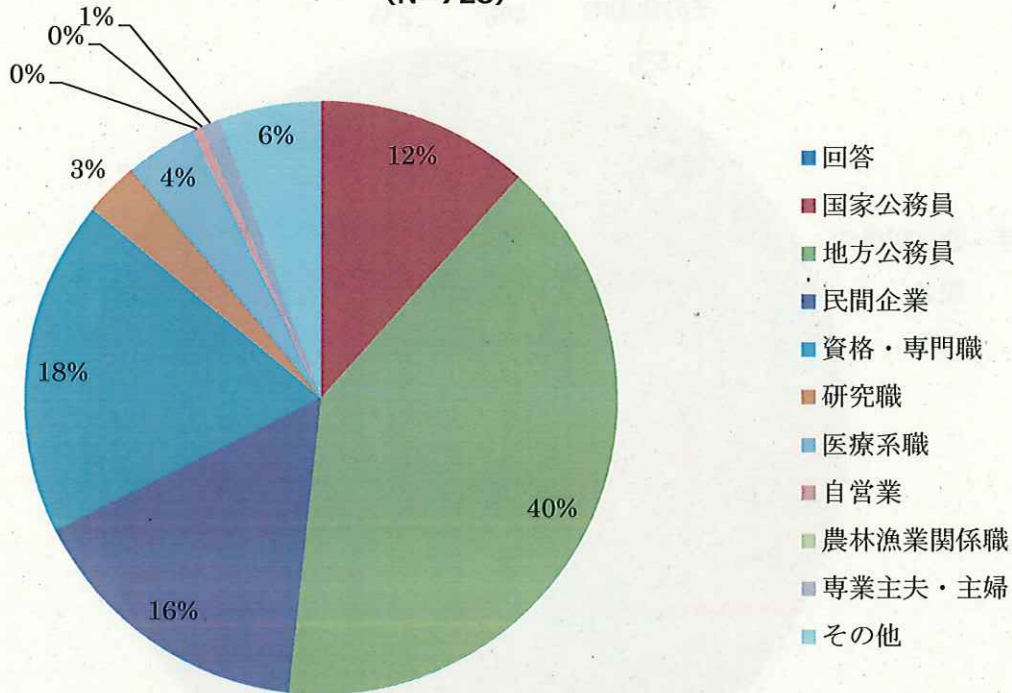
学連携

回答者数 728 人

うち滝沢市在住者 102 人 (約 14%)

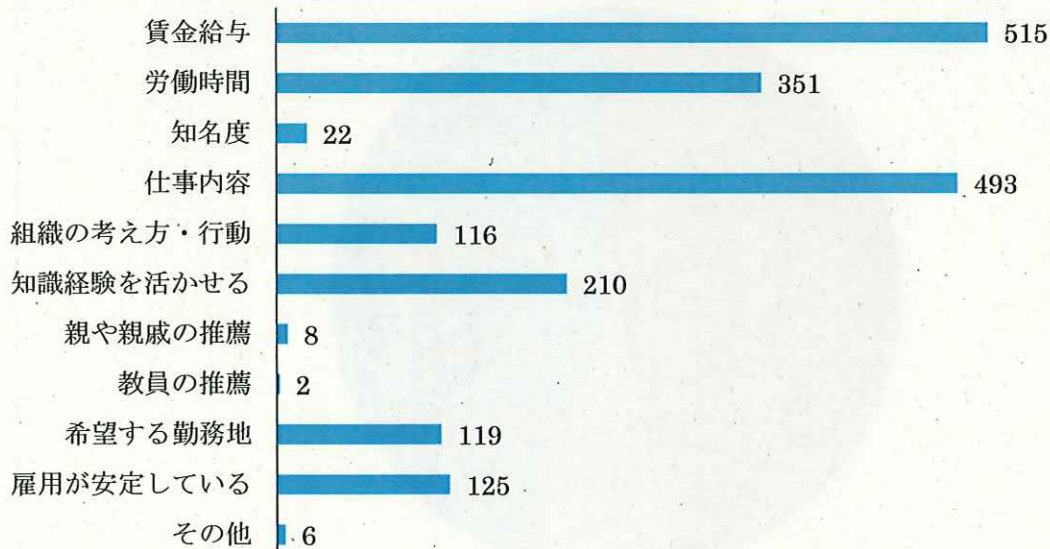
あなたが将来就きたい職は？

(N=728)



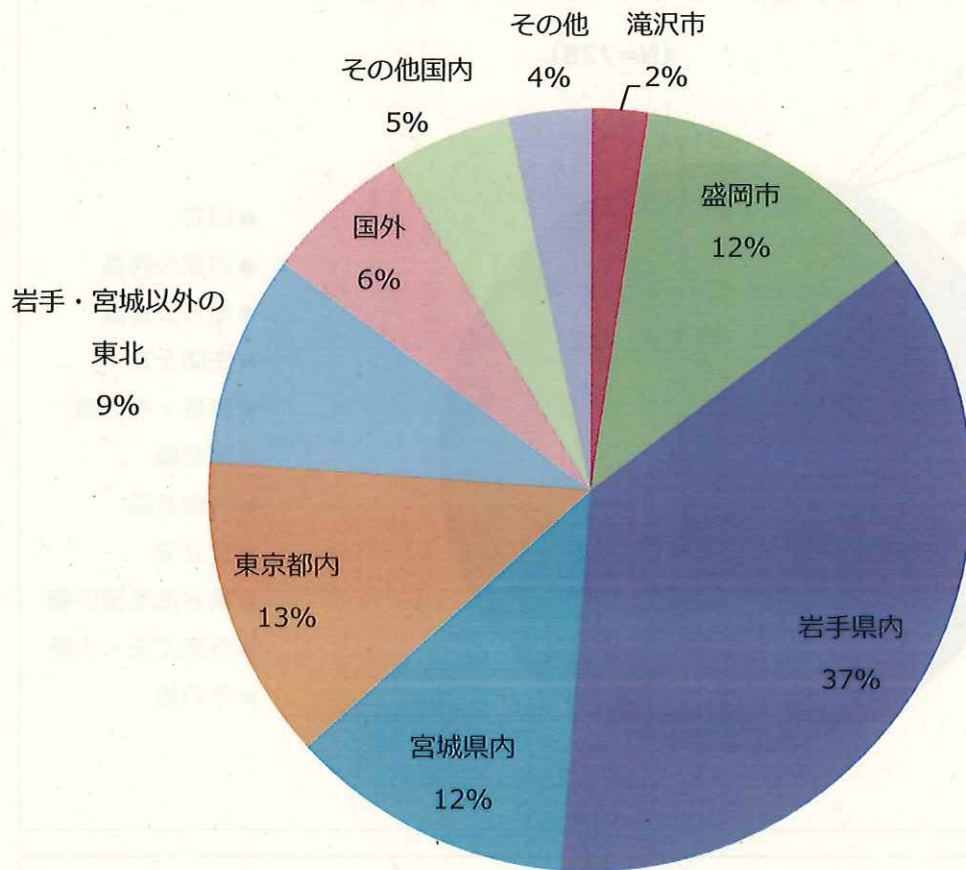
就職先選択の際に重視すること

(N=728、複数回答)



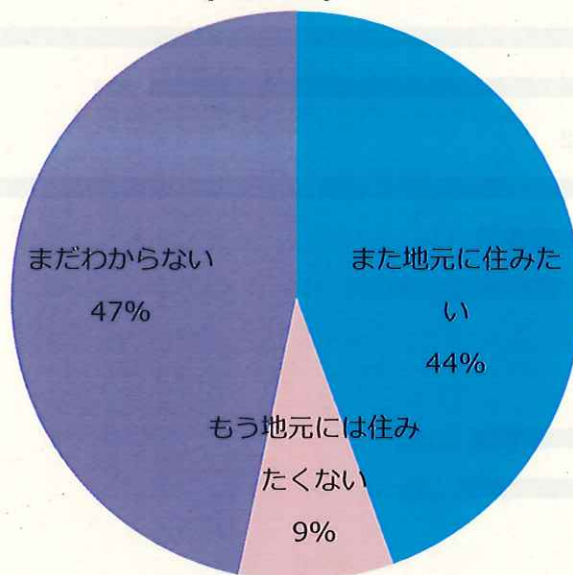
将来就職した際に住みたい地域

(N=728)



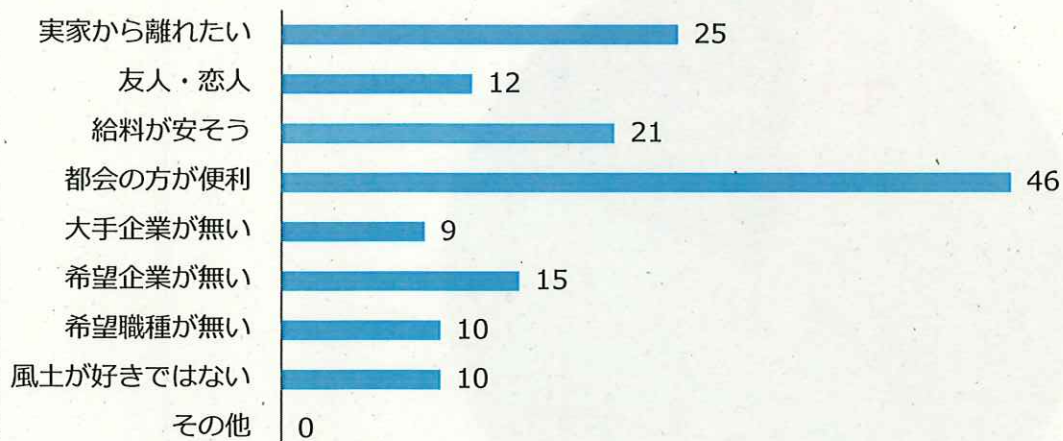
今後県外に居住することになった場合、また地元に住みたいと思いますか？

(N=728)



地元に住みたくない理由

(住みたくないと答えた人のみ)

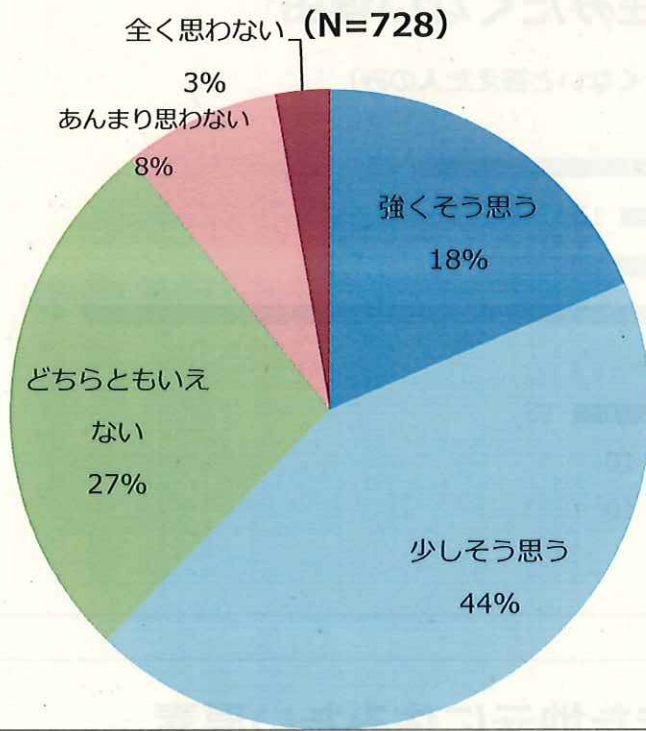


実現すればまた地元に住みたい要素

(住みたくないと答えた人のみ)



自分の住んでいる地域に愛着を持っていると思いますか？



以下のとおり、 学生を応援する こととしてよろしく 伺います。



学びの資金3万円を給付

アフターコロナでも学びを加速できるよう、滝沢市から学びの資金として3万円を支給します！
本人または保護者等が滝沢市に居住している学生が対象になります。詳しくはホームページで！

滝沢市役所でアルバイト募集

アルバイトが減ったり、オンライン化でPC代が必要だったり…というコロナウイルスの影響を受けている学生を対象に、市役所でアルバイトを募集します！バイトしながら人とのつながりもできるかも！

学生に向けたゆるい情報発信

学校の情報も入ってこないし、自分の住んでいる地域のこともわからない…。オンライン化の今だからこそ、滝沢市役所は学生向けのインターネットラジオやYouTube配信等、新しくゆるい情報発信を進めます！様々なコンテンツを通じ、滝沢市で新たなつながりを創りませんか？

※学生：大学生、大学院生、短期大学生、高等専門学校（4年生及び5年生）、専門学校生

詳しくは
ここだよ



滝沢市 HP

ぼくたちが担当です！
学びを止めないよう、
一緒に頑張りましょう！



滝沢市
企画総務部企画政策課

019-656-6561 8:30~17:15 (平日)
担当：川嶋・小綿



gakusei@city.takizawa.iwate.jp



@takizawauniv

総務教育常任委員会 所管事務調査資料

若者による課題掘り起こし及び魅力発見の取組
について

令和2年8月19日
市民環境部地域づくり推進課

若者による課題掘り起こし及び魅力発見の取組について

地域づくり推進課所管事業：地域人材育成・交流事業

1 趣旨・目的

滝沢への愛着と高いスキルを兼ね備え、市内外をつなぎながら活躍できるような人材の育成、輩出を行うとともに、住民自治の深化、雇用創出、選ばれる自治体化、関係人口の創出を狙うものです。

2 事業の位置付け

・地方創生事業として内閣府に申し込みし、令和元年度から令和5年度までの5か年間、地方創生推進交付金事業の「令和元年度内閣府のモデル事業」に認定された事業

令和元年度・・・補正事業につき事業期間が短く、3つのコースを設定し試験的に学ぶ場を構築
令和2年度以降に継続的に地域を学ぶ場を構築するため、自治会長研修の場を借りて、事業説明を行った。

令和2年度・・・受講者全員が自治会の協力を得ながら滝沢市を学び、興味がある分野を徹底的に調査する。そこで、市民との交流を進めながら、やりたいことを見つけていく。

3～5年度・・・前年度に見つけたやりたいことを具現化するために、企画やテクノロジー、経営等を学ぶ場を自ら作っていく。

・令和6年度以降は、民間事業に移行し、元年度以降に撮影した動画や、作成したテキストをもとに、継続的に事業を行っていくものです。

3 対象者

本事業においては、今後の社会を担う人材という観点から、若者世代を主たる対象としました。

具体的には、若手社会人（おおむね40代まで）や市内外の大学に通う大学生（事業内容によっては小中学生等）までを想定しました。

実際の受講者は、小学生から70代まで幅広く参加しましたが、主な層は、会社員、農業者、個人事業主、学生、主婦、公務員を中心とした20代から40代の世代となり、ターゲット通りの層となりました。

4 実施概要

人材育成の方針については、「高いスキル」と「滝沢への愛着」の双方を生み出す、教育機会の創出であります。また、プロジェクト全体を通じて、参加者や市民、講師、職員等が交流できる機会を可能な限り持ち、交流やネットワークの構築に努めました。

(1) テクノロジーを学ぶコース 定員20名に対し17名が参加

技術特化型講義・・・2日間

IT勉強会・・・4日間

IOTアイデアソン・・・2日間 合計8日間

課題を提供していたため、個々に宿題を行う時間を作り、その後は同じチームで連絡を取り合い、

メンバー同士が集まって取り組みました。

令和元年度は WEB 技術の基礎知識から、実際にプログラミングにより、自身でホームページを作るところまで実施し、その後に、自身がやりたいことを考え、必要な技術を考えるワークショップを行いました。

ワークショップには小学生から大人までが参加し、最終的にはその成果のプレゼンテーションまで行いました。

実際にその技術をもとに開発するのは、令和2年度以降になります。

(2) 地域に関心を持ち、地域の良さを発掘するコース 定員10名に対し11名が参加

ツアーづくり・・・3日間他、チームで取材や企画、交渉を実施

令和元年度は、地域の良い部分を発見し、「観光ツアー」を創るというテーマで実施しました。

運営側でモデルツアー **資料1** をつくり、実際に首都圏等から人を呼び込み、受講者との交流の機会をつくりながら、受講者は実際に自身で地域を調査し、興味がある場所や人、産業を取材し、ツアーをゼロから作りました。

ツアーに組み込むためには金額的な交渉も必要であり、これら全てを受講者が学び実践しました。

受講者としても、滝沢市の新たなエリアや人を学ぶことができ、かつ、世界に広めたいという想いも生まれました。

実際のツアー実施は令和2年度の事業で実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響から、対象を首都圏の方ではなく、県内の方にするなど、工夫が必要と考えています。

・企画されたツアー

①姥屋敷の冬の遊び体験ツアー・・・**資料2**

②郷土芸能ツアー・・・**資料3**

③美食ツアー・・・**資料4**

また、モデルツアー参加者を対象に地域の資産や課題を客観評価してもらい、滝沢市における取組や人とのつながりを通じ、「滝沢ファン」としての関係人口化をねらいました。

実際にその後もチャグまるしえを利用いただいたり、SNS のフォロワーになっていただいたり、関係人口となっています。

(3) 課題解決に向けた企画を学ぶコース 定員30名に対し19名が参加

ワークショップ・・・全4日間及び講師の講義受講

講師 会津大学産学イノベーションセンター 藤井靖史氏、エイチタス株式会社原亮代表

「滝沢市の健康ダンス」を活用した、新しい健康意識の向上についてワークショップを実施

企画内容は

①ダンスの一部分（ボックスステップ等）だけでも、全員が踊れるようにするなど、ほんの少しのチャレンジを継続的に行うための企画

②若者が参加しやすいスタイルの運動会を実施して、そこでのコンテンツのひとつとする

③ダンスを絡めてギネスの認証を目指す

5 効果

(1) 学びについて

・自身の地域をより深く知るために、自らが企画し行動し、地域の人に取材をすることで、より地

域に愛着を得ることができました。

・今回は個人として学ぶことやチームを組成しチーム運営を行いながら学ぶこと、そして、講義外の宿題に取り組むなど、短期間で集中的に学ぶハードな環境でしたが、最後まで、誰一人挫折することなくチームで支えあいミッションを達成しました。

・特にも社会、地域に関心を持つための取り組みは、受講者からも好評であり、自身が住んでいる地域でも知らないことを知る機会となったほか、その情報を整理し、SNS等で発信することで、外部の人からの共感を得ることができました。この循環で、地域に対して、より愛着を抱くことができました。

(2) 交流について

・令和元年度については、チーム交流とツアー実施での交流が主軸でしたが、その実施にあたっては、スラックやトレロといった、企業や学生の最新のコミュニケーションツールを活用し、テキストによる議論や制作を重点的に行いました。

・リアル交流とアプリケーション等を通じた交流を併用することでより、企業からも賛同を得やすい取り組みとなりました。

・首都圏の方との交流を行うことで、普通と感じていた自然や景観、食材などが、とても高価値であることに気づくきっかけとなりました。

(3) 波及効果

・滝沢市の取り組みに共感をいただき、企業5社から9,300千円の寄附金をいただくことができました。

・継続的に学びたいという理由で、葛巻町から滝沢市に受講者が引っ越した方がいます。

・ツアーで協力いただいた方(行徳養魚場や伊藤牧場など)を中心に、市内での売り上げが発生しました。(トータル500千円程度)

・この交流を機会に、イワナを取り扱う飲食店が増えました。

・受講者の北上在住の学生がこの事業を通じて滝沢市に興味を持ち、現在ビッググループ滝沢でアルバイトをしています。(会計年度任用職員として)

6 事業費・財源

事業費：18,678千円

うち、地方創生推進交付金：9,339千円

企業からの寄附金：9,300千円

(一般財源：39千円)

7 令和2年度の事業展開について

・地域に関心をもつための取り組みを、重点的に実施してまいります。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインの講座を中心に展開します。

・コロナ禍の情勢が続くのであれば、令和元年度に企画した「観光ツアー」を実施するとしても、首都圏から呼び込むのではなく、県内から呼び込むなどの工夫が必要と考えています。

総務教育常任委員会
所管事務調査資料

若者による課題掘り起こし及び
魅力発見の取組について

令和2年11月6日
教育委員会事務局生涯学習スポーツ課

第1次滝沢市生涯学習推進計画「学びプランたきざわ」について

1 推進体制

会議名	日時	対象	内容
生涯学習推進協議会	11月10日	協働団体代表や校長会、学識経験者	R1実績とR2進捗状況 社会教育主事講習講演報告
生涯学習推進会議	10月27日	三役や全部長級	R1実績とR2進捗状況 社会教育主事講習講演報告
生涯学習推進会議幹事会 ・担当者会議合同会議	10月9日	関係課長や関係課担当	R1実績とR2進捗状況作成 社会教育主事講習講演報告

2 重点項目

重点1 生きがいを持てる学びの環境の構築
展開戦略：生きがいとやりがいのある充実した人生を送ることができる学びの環境の構築
事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・学びの情報共有：生きがいとやりがいの学びガイド発行・全戸配布や広報たきざわ・HP、出前講座 ・全庁規模による生涯学習推進ネットワーク形成：生涯学習推進協議会や社会教育委員会議の開催

重点2 少子化対策を通じた子どもが安心して学べる環境づくりの促進
展開戦略：切れ目のない支援（結婚や妊娠期、子育て期まで）による少子化対策を通じた子どもが安心して学べる環境づくり（教育や健康福祉、就労などの支援）の促進
事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題解決セミナー：発達障がいとペアレントトレーニング（成人対象）や安比高原ブナの森ファミリー探検（親子対象）、星空観察会（親子対象） ・家庭教育事業：幼児家庭教育講座（保育園対象）、家庭教育学級（小中学校対象） ・放課後子ども教室（チャグホ塾） ・青少年対策：青少年問題協議会の開催や青少年育成市民会議との連携・協働による青少年課題解決

重点3 全庁規模による地域課題解決学習の展開
展開戦略：複雑化・多様化する地域課題や教育課題の解決を目指した全庁規模による地域課題解決学習の展開
事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題解決セミナー【再掲】：発達障がいとペアレントトレーニング（成人対象）や安比高原ブナの森ファミリー探検（親子対象）、星空観察会（親子対象） ・青少年教育：子ども会リーダー養成研修会（小学生）、ジュニアリーダーズセミナー（中学生・高校生） ・青少年対策【再掲】：青少年問題協議会の開催や青少年育成市民会議との連携・協働による青少年課題解決 ・成人教育：滝沢市地域婦人協議会との連携・協働による女性活躍の促進 ・教育振興運動：滝沢市教育振興運動推進協議会との連携・協働による情報メディアとの上手な付き合い方の意識啓発や地域の教育課題の解決 ・学びフェスタ：子どもから高齢者まで全世代による生涯学習活動報告（本年度は規模縮小）

重点4 若者活躍・定住による経済・地域活性化

展開戦略：若者活躍・定住による経済・地域活性化（雇用促進や観光振興、企業振興・産学官連携、ICT・IoT、起業家育成、農業振興、文化芸術、スポーツ）

事業内容

- ・新成人の集い：新成人の集い実行委員会主催による岩手産業文化センターにて開催
- ・青少年教育【再掲】：子ども会リーダー養成研修会とジュニアリーダーズセミナーでの学生スタッフ活躍
- ・地域課題解決セミナー【再掲】：SDGsセミナー（高校生10人、大学生5人参加）

重点5 すべての世代を結ぶ学びの輪づくり

展開戦略：子どもから高齢者まで全ての世代を結ぶ学びの輪づくり

事業内容

- ・学びの情報共有【再掲】：生きがいとやりがいの学びガイド発行・全戸配布や広報たきざわ、HP
- ・学びフェスタ【再掲】：子どもから高齢者まで全世代による生涯学習活動報告（本年度は規模縮小）

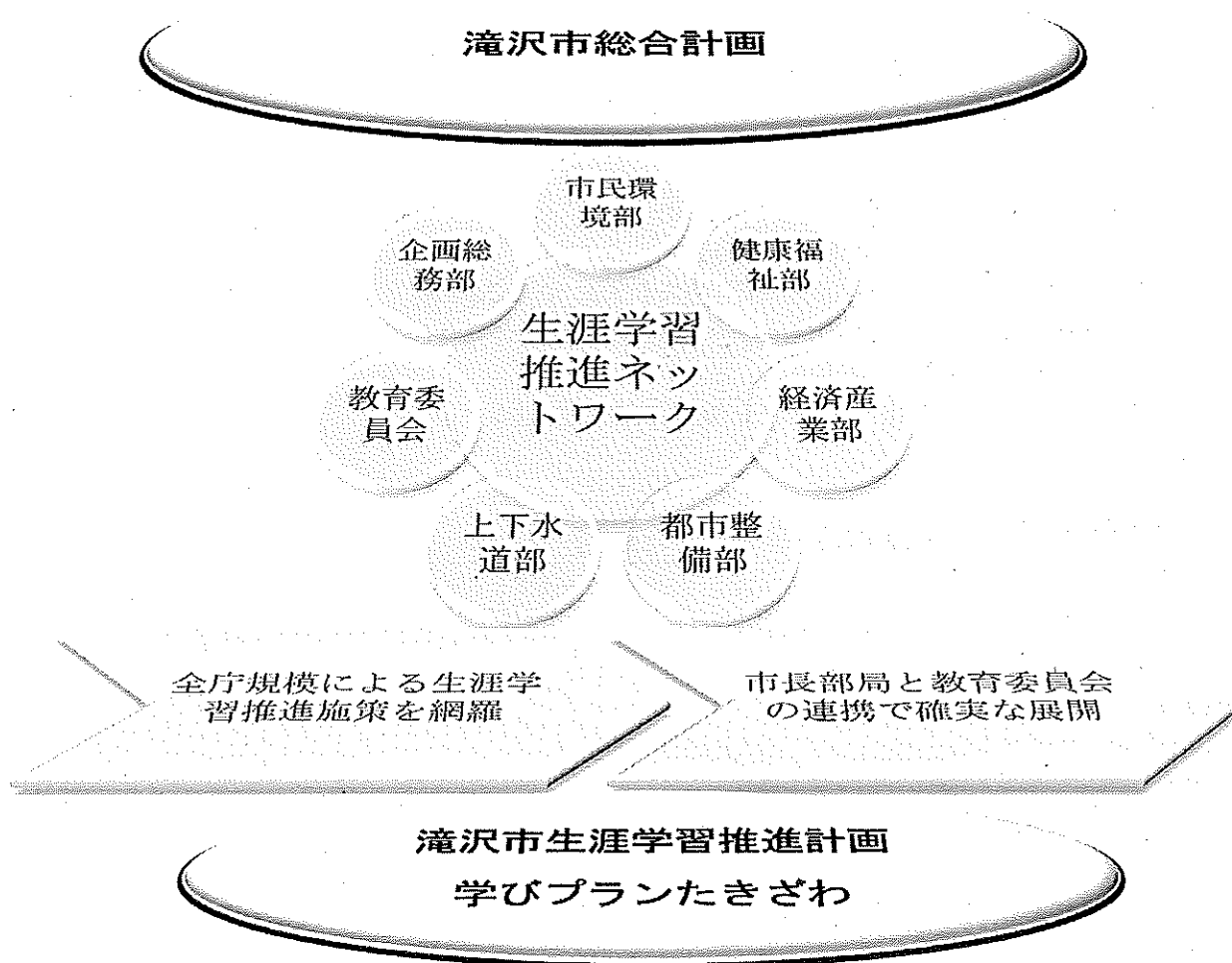
重点6 スポーツによる「人・つながり・地域づくり」

展開戦略：スポーツによる健康づくりの推進や地域力の向上、施設の利用促進と競技力向上を通じた「人・つながり・地域づくり」

事業内容

- ・スポーツイベント：スポーツフェスティバルや市民体育祭、チャレンジデー、元気アップ教室など
- ・スポーツ推進委員協議会：スポーツ推進委員協議会との連携・協働
- ・地域課題解決セミナー【再掲】：安比高原ブナの森ファミリー探検（親子対象）
- ・体育協会との連携・協働：チャグチャグスポーツクラブ（シニア世代対象：太極拳やグラウンドゴルフ、ダンススポーツ、エアロビクス、なぎなた含む）やスポーツ少年団など
- ・スポーツツーリズム：県や盛岡広域市町、盛岡広域スポーツコミッションと連携・協働したサイクルツーリズムの調査研究
- ・学校と地域の連携・協働：チャグチャグスポーツクラブやスポーツ少年団活動【再掲】、いわてスーパーキッズ選出児童生徒の支援、プロスポーツチームや大学運動部との連携
- ・障がい者スポーツ：東京オリンピック・パラリンピックと関連した理解促進
- ・施設の利用促進：滝沢総合公園体育施設や東部体育館、勤労者体育センター、多目的研修センターなどの計画的な維持管理、修繕、更新や学校体育施設開放、東部体育館大規模改修（屋根や外壁、トイレ様式化、照明LED化、スロープ回収）

3 総合計画との関連性



4 生涯学習・スポーツ推進体制

【生涯学習】基本方針1 学びによる生活の質の向上
<p>目指す姿：全ての世代が、学びによる生活の質の向上で、生きがいとやりがいのある充実した人生を送ることができるまち</p>
<p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画政策課：広報たきざわやHP、SNSを活用した情報発信・交流や学生応援プロジェクト ・地域づくり推進課：ビッグルーフ滝沢セミナー ・選挙管理委員会：選挙啓発授業（小中学校や高校、大学など） ・健康づくり政策課：全庁規模による健康づくり政策形成やスマートウェルネスシティの調査研究 ・健康推進課：健康ダンス「インダ」の普及啓発やマタニティクラブ、両親学級、子育て世代包括支援センター、思春期保健講演会

【生涯学習】基本方針2 支えあう地域力の向上

目指す姿：「人・つながり・地域づくり」を通じた地域力向上で、支えあいが暮らしに潤いを与えるまち

事業内容

- ・企画政策課：学生応援プロジェクト【再掲】
- ・健康づくり政策課：全庁規模による健康づくり政策形成やスマートウェルネスシティの調査研究【再掲】
- ・健康推進課：健康ダンス「インダ」の普及啓発やマタニティクラブ、両親学級、子育て世代包括支援センター、思春期保健講演会
- ・企業振興課：超スマート社会を拓く人づくりセミナー
- ・防災防犯課：防災リーダー養成講座など防災学習
- ・都市政策課：公共交通マップによる情報発信やバスまつり、公共交通会議
- ・地域づくり推進課：ビッグルーフ滝沢セミナー、自治会連合会や地域づくり懇談会との連携・協働、男女共同参画や女性活躍の普及啓発
- ・選挙管理委員会：選挙啓発授業（小中学校や高校、大学など）啓発

【生涯学習】基本方針3 伝統継承と未来を担う人づくり

目指す姿：伝統文化・芸術や文化財、歴史、産業などの次世代継承と未来を担う人づくりによる経済・地域活性化で活力あふれるまち

事業内容

- ・文化振興課：芸術祭や郷土芸能まつり、滝沢市の歩み講座
- ・埋蔵文化財センター：埋蔵文化財・歴史講座
- ・企画政策課：学生応援プロジェクトや滝沢ふるさと会活動支援
- ・観光物産課：チャグチャグ馬コや観光振興、特産品開発販売、伝統工芸品PR、就労支援
- ・企業振興課：超スマート社会を拓く人づくりセミナー、就職イベント・セミナー、ICT・IoTによる産業創造
- ・選挙管理委員会：選挙啓発授業（小中学校や高校、大学など）啓発
- ・地域づくり推進課：男女共同参画や女性活躍の普及啓発
- ・農林課：農業担い手育成や新規農業対策、農産物地域ブランド化、グリーン・ツーリズム推進協議会と認定農業者協議会との連携・協働

【スポーツ】基本方針1 スポーツによる健康づくりの推進

目指す姿：子どもから高齢者まで全ての世代が生涯スポーツによる「人・つながり・地域づくり」と健康づくりの推進で輝くまち

事業内容

- ・健康づくり政策課：全庁規模による健康づくり政策形成やスマートウェルネスシティの調査研究
- ・健康推進課：ノルディックウォーキング教室、企業対抗健康づくりスモールチャレンジ事業、健康ダンス「インダ」の普及啓発
- ・企画政策課：滝沢市表彰条例に基づくスポーツ分野の特別表彰

【スポーツ】基本方針2 スポーツを通じた地域力の向上

目指す姿：スポーツを通じた学校と地域の連携・協働や共生社会（障がい者支援や高齢者いきがい、女性活躍）の実現で絆を深めあうまち

事業内容

- ・健康づくり政策課：全庁規模による健康づくり政策形成やスマートウェルネスシティの調査研究
- ・健康推進課：元気アップ教室、ノルディックウォーキング教室、企業対抗健康づくりスモールチャレンジ事業、健康ダンス「インダ」の普及啓発
- ・地域福祉課：障がい者計画・障がい者福祉計画・障がい者児童福祉計画の展開
- ・高齢者支援課：睦大学、老人クラブスポーツ大会

【スポーツ】基本方針3 施設の利用促進と競技力向上

目指す姿：関係団体やいわて・盛岡広域スポーツコミッションなどと連携・協働した施設の利用促進と競技スポーツ振興を目指すまち

事業内容

- ・都市政策課：滝沢総合公園管理

総務教育常任委員会
所管事務調査資料

若者による課題掘り起こし及び
魅力発見の取組について

令和2年11月6日
教育委員会事務局文化振興課

1. 伝統文化について

○滝沢市郷土芸能保存団体協議会（平成19年3月設立）は、郷土芸能の保存と振興を図り、市民に伝統芸能に対する理解と文化財の愛護を目的に下記の6団体で構成されています。

篠木神楽保存会	岩手県指定無形民俗文化財（平成23年5月10日指定） 滝沢市無形民俗文化財（昭和42年3月1日指定）
篠木神楽は滝沢市篠木の地にある田村神社の奉納神楽で、神主である斎藤家の秘流として古くから伝えられてきた神楽で、400年以上の歴史がある神楽です。演目は、鳥舞、八幡舞、山の神舞、獅子舞など26番あります。文化財価値が非常に高いと評されています。	
【会長】主演 春雄 【会員数】小学生3 大人14 計17人 【活動場所】田村神社境内の神楽殿 【活動日】不定期	
川前神楽保存会	滝沢市指定無形民俗文化財（昭和52年12月10日指定）
岩手山神社の神楽として、川前地区に伝えられる神道神楽です。篠木神楽から神楽を習ったといわれ、それを岩手山神社へ奉納し講中となり登山の際の願掛けをしたと伝えられています。	
【会長】熊谷 初男 【会員数】小学生3 中学生8 大人13 計24人 【活動場所】川前公民館 【活動日】毎月第3土曜日	
大沢田植踊り保存会	滝沢市指定無形民俗文化財（昭和61年7月26日指定）
厳しい自然条件の中で農作業に励んだ農民の豊穡への祈りが込められています。口承によると330年位前に上鶴飼から伝わったとされ、雫石町の葛根田田植踊りにも指導したこともあるといわれています。	
【会長】大坪 佐市 【会員数】小学生6 大人18 計24人 【活動場所】第三分団屯所 【活動日】本番の1か月前～週2回程度	
滝沢駒踊り保存会	滝沢市指定無形民俗文化財（昭和59年6月19日指定）
駒踊りは、昔の南部藩領内に広く伝承されている放牧中の馬の動作を基本にして愛らしさを巧みに表現した踊りです。滝沢駒踊りは毎年6月のチャグチャグ馬コの行進では滝沢駒踊りが祭りを盛り上げる大役を果たしており、蒼前神社・青山町商店街・盛岡駅前・肴町商店街で踊り、観光客を楽しませています。	
【会長】堀江 徹 【会員数】幼・小学生13 大人9 計22人 【活動場所】東部体育館 【活動日】水曜日（月2回程度）	
滝沢市さんさ踊り保存会	
明治以前から踊り継がれている滝沢のさんさ踊りですが、近年「滝沢さんさ」も海外遠征まで行くようになり、保存会として立ち上げてからは42年になりました。各小学校等に出向き伝承活動をしています。	
【会長】角掛 則浩 【会員数】幼児3 小学生54 中学生45 大人89 計191人 【活動場所】中央小学校他 【活動日】金曜日	
蒼前太鼓保存会	
蒼前太鼓保存会は、昭和59年に滝沢市の地域活性化を目的に、和太鼓の勇壮な響きに魅せられ市の青年有志によって、独自の和太鼓集団として創設されました。チャグチャグ馬コをはじめ、滝沢市の自然、風土、歴史や文化を想いながら曲作りを行っています。	
【会長】小笠原 明 【会員数】小学生2 中学生1 大人12 計15人 【活動場所】鶴飼小体育館 【活動日】月曜日	

○伝統文化の継承状況について ～令和元年度「総合的な学習の時間」実績～

学校名	学年	タイトル	団体名	備考
篠木小	3	田植え踊りについて学ぼう	大沢田植踊り保存会	
滝沢第二小	4	伝統芸能学習 滝沢さんさ	滝沢市さんさ踊り保存会	
鶴飼小	3, 4	さんさ踊り	滝沢市さんさ踊り保存会	
滝沢東小	4	表現しよう 伝統芸能「川前神楽」	川前神楽保存会	
滝沢中央小	3～6	滝沢さんさを受け継ごう	滝沢市さんさ踊り保存会	

※協議会外ではありますが、元村こどもさんさ愛好会や一本木さんさ保存会も実績があります。

○伝統文化発表の機会について ～令和元年度と令和2年度の実績比較～

令和2年度	番号	イベント名	昨年度日時	場所	出演団体
中止	1	四十四田ダムさくらまつり	4月29日	四十四田ダム	川前神楽
中止	2	GEINO女子交流会	5月4日	北上市 みちのく民俗村	川前神楽
中止	3	地産地消フェスタ	5月25日、26日	ベルフ牧野林	篠木神楽、川前神楽、滝沢駒踊り、滝沢市さんさ踊り、蒼前太鼓
中止	4	チャグチャグ馬コ駒踊り奉納	6月8日	鬼越蒼前神社、ビッグルーフ、青山町商店街、盛岡駅、肴町商店街	滝沢駒踊り
中止	5	チャグチャグ馬コふれあいまつり	6月8日	ビッグルーフ	蒼前太鼓、大沢田植踊り、川前神楽、滝沢市さんさ踊り
神事のみ	6	例大祭	7月13日	熊野神社	大沢田植踊り
神事のみ	7	例大祭	7月14日	田村神社	篠木神楽
今年はなし	8	いわて絆まつりin宮古2019	7月14日	宮古市	大沢田植踊り
7月25日	9	じゃじゃじゃTV生中継		滝沢市役所駐車場	市さんさ踊り保存会
8月2日 (参加せず)	10	青空市		ビッグルーフ滝沢	市さんさ踊り保存会、(大沢さんさ踊り保存会、元村こどもさんさ)
中止	11	盛岡さんさ踊り	8月3日	盛岡市	市さんさ踊り保存会
中止	12	盛岡手作り村夏祭り	8月12日	盛岡手作り村	蒼前太鼓
調整中	13	滝沢市伝統芸能フェスティバル	8月18日	イオンモール前湯	全6団体
10月3日、4日	14	滝祭	8月24日、25日	ビッグルーフ滝沢	篠木神楽、川前神楽、大沢さんさ
中止	15	いわて子供神楽フェスティバル	10月19日	イオンモール前湯	川前神楽
中止	16	北部コミセン祭	10月26日	北部コミセン	市さんさ踊り保存会
11月8日予定	17	伝統さんさ踊りこども発表会	11月4日	キャラホール	市さんさ踊り保存会、大沢さんさ
今年はなし	18	新成人の集い	1月12日	滝沢総合公園体育館	蒼前太鼓
1月31日予定	19	滝沢市郷土芸能まつり	1月26日	ビッグルーフ滝沢	全6団体、元村こどもさんさ
2月14日予定	20	新春初踊り	2月2日	滝沢ふるさと交流館	蒼前太鼓
未定	21	IGRアートステーション	2月16日	なにやーと	市さんさ踊り保存会

※今年度は発表の機会がほとんどなく、各団体とも練習もできない状況が続きました。

※マスコミの活用については、7月25日のじゃじゃじゃTVの生中継時に、令和3年1月31日開催予定の滝沢市郷土芸能まつりのPRを実施しました。1月の定例記者会見でも郷土芸能まつりのPRをする予定です。

○郷土理解推進事業について

郷土への理解を深めるため、平成30年3月に発行した郷土史「滝沢市の歩み」を基に、「滝沢市の歩み講座」を開催しています。平成30年度は、講座を4回開催し、計147名の参加がありました。令和元年度は、講座を1回と、「滝沢市の歩み」ゆかりの地をめぐる」と題した文化財の見学ツアーを1回企画、講座20名、ツアー9名の参加がありました。

今後、若者の参加も多く見込まれ、滝沢市の魅力発見に繋がるような事業のあり方を検討していきます。

2. 埋蔵文化財センター(縄文ふれあい館)の活用について

○埋蔵文化財センターの概要

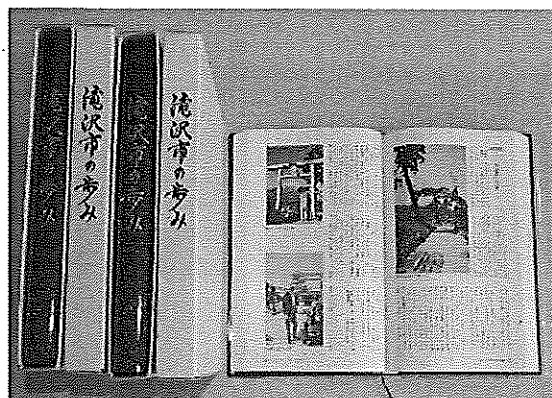
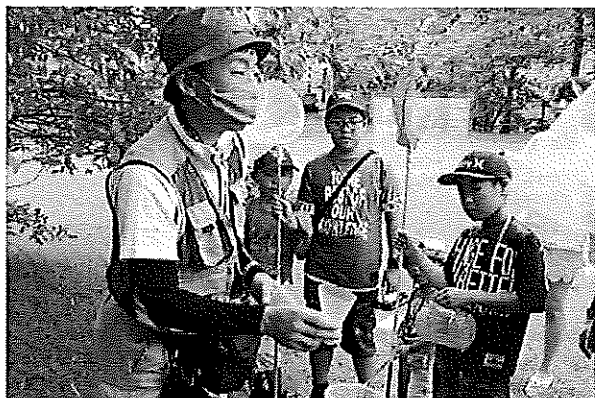
- ・平成2年に大規模開発予定地として発掘調査しストーンサークルを発見したことから、埋蔵文化財の調査研究、保存、学習及び湯舟沢環状列石史跡公園活用等の拠点施設として、あすみの団地西側に平成12年4月1日に開館し、今年度開館20周年となりました。
- ・展示室には、市内で発掘調査された土器や石器など約300点の資料を展示しており、中には市指定有形文化財である「足形付土版」や「人体文付深鉢」などの資料もあります。
- ・特色としては、全国的にも貴重な約4,000年前のストーンサークルを復元した史跡公園があります。
(現物は地中に埋め、レプリカの石を表面に並べ再現しているため、気軽に楽しめます。)
- ・歴史体験事業として、土器や、石のお守り、勾玉の製作体験を実施しており、出前講座としては、地域のコミュニティセンター等、子どもが参加しやすい場所に出向いて実施しています。
- ・入館料 大人200円(20人以上団体100円)、幼児～高校生 無料
- ・休館日 毎週月曜日(月曜日が祝祭日の場合はその翌日)及び年末年始

○埋蔵文化財センターの利用者数の推移

年度	入館者内訳							小計	出前講座 利用者数	入館者+ 出前講座
	幼児	小学生	中学生	高校生	大人	免除	団体			
参考H12	152	620	72	16	922	383	114	2,279	640	2,919
H29	136	1,034	44	94	147	362	62	1,879	390	2,269
H30	269	1,283	35	22	171	184	0	1,964	338	2,302
H31(R1)	138	1,885	27	15	129	234	0	2,428	45	2,473

○埋蔵文化財センターの活用方法について

- ・課題として大人の入場者数が伸びないことから、親子で参加できる企画を実施しました。今年度の「滝沢市の歩み学習講座」として、今年度は「きみも滝沢市の虫博士になろう!」を開催しました。市内の親子15名に参加いただき、身近な虫の見分け方を学び、史跡公園のストーンサークルを見学。初めて埋蔵文化財センターを訪れた親子も多く、好評をいただきました。
- ・小学校の社会科見学等を受け入れており、見学後に親子で再び訪れ勾玉作り体験などをしていく姿も見られます。世代として受け継がれていることも感じられます。
- ・毎年12月に埋蔵文化財センターにて開催している「埋蔵文化財講座」を、今年度はビッググループたきざわで開催します。より多くの方々に埋蔵文化財センターを知っていただく機会とします。



3. 民具保管庫について

○民具保管庫の移転経過について

- ・平成 28 年度末に公民館を廃止したことにより、旧公民館ホールの有効活用として、それまでふるさと交流館西側のプレハブに保管されていた民具類を移転する方針となりました。
- ・平成 30 年 6 月に民具の移転を完了、その後台帳整備や展示作業を継続しました。
- ・令和 2 年度には、不要物品の撤去や財務課との調整を経て、見学できる状態になりました。

○民具保管庫の活用方法について

あくまでも市役所分庁舎の保管庫であり、展示施設としての要件を満たしていないことから、常設公開展示はせず、当面の間、庁舎見学等の小中学生を対象に、「小中学生の学びの場」として文化振興課職員が対応可能な範囲で公開します。見学を希望される市民の方々への公開についても検討していきます。

○ホール見取り図

保管総数 915 点のうち、生業や衣食住に関わるものなど、江戸時代から昭和 40 年代位の生活の幅広い分野にわたって使用されてきた農具や生活用具を中心に約 500 点を展示しています。

